

農廢地を利用したカシクルミの栽培

問 農廢地を利用して、カシクルミを植えたいとおもいますが、栽培にあたって注意すべき点をおしえて下さい。
(七飯町 K 生)

答 近年、生活様式の変化や、自然食志向の風潮にともなって、カシクルミの需要がのびてきています。道内でもシナノグルミを中心に農廢地などで栽培を試みる人がふえていますが、比較的寒地向きの省力果樹といわれるクルミの場合も、実際には適地の選択や栽培管理の方法などに細心の注意を払う必要があります。

クルミの一般的な栽培適地は、土壌が深く肥沃で、日当たりがよく、風あたりの少ない水はけのよいところとされていますが、気候的には5月下旬の開花・授粉期には晴天が多く、果実肥大期の6～8月は適潤で、9、10月の果実充実期には再び晴天日数の多いことが条件になります。とくに、開花期に強風や海霧の影響を受けることの少ない、凍霜害にかかりにくい地形の場所が望まれます。

農廢地の場合、とかく窒素過多のため、剪定後の萌芽枝などが徒長し、寒風害をうけやすくなりがちです。また、耕土の下層がとくに堅密な土壌になっている場合も多く、直根性であるクルミでは、あらかじめ深耕碎土を行い(酸性土壌の場合は石灰投入による酸度矯正が必要)、植穴を大きくとってバランスのとれた基肥を十分に施用する必要があります。

つぎにクルミ栽培における日照の効果と防風林の重要性を示す一例として、当場の試験成績を下表に示してみましよう。

道路をはさんで防風垣に接している南側林縁に近い部分の生長と結実本数率、収量のいずれもが相対的にすぐれています。

以上のほか、農廢地のうち山林原野に近いところや粗放な草生栽培地では、野兎鼠害や害虫(クルミシンクイガ、クルミハムシ等)が多くなるので、殺鼠剤の散布や忌避剤の塗布、ビニールシートによる樹幹の被覆、殺虫剤散布などの対策をたてる必要があります。

(道南支場 館 和夫)

シナノクルミ実生木の栽培成績 (函館, 1980)

防風垣からの距離 (m)	植栽本数	生立本数	結実本数	結実本数率 (%)	平均樹高 (m)	平均収量 (kg)	備 考
10	58	58	40	69.0	5.5	0.72	1967年5月設定 植栽間隔5×5m。
20	58	57	20	35.1	5.1	0.44	
30	58	58	14	24.0	4.6	0.42	
40	58	56	10	17.9	4.0	0.35	
50	58	43	3	7.0	4.0	0.10	
計	290	272	87	32.0	4.6	0.39	

注) 収量は結実木1本当り平均収量。防風垣はニオイヒバで1962年植栽、樹高4～5m。